

第7回「情報とシステムの視点からみた組織と社会」研究会 開催報告

研究会主査 川野喜一

- 開催日時 2014年3月13日(木) 18:30~20:10
- 開催場所 専修大学神田キャンパス 1号館13階 13A教室
- 出席者 26名

■開催概要

2月に学会から発刊された「新情報システム学序説」の執筆者(新情報システム学体系調査研究委員会メンバー)に、新しい情報システム学の体系化を進めてきたプロジェクトの成果を紹介していただいた。

■講演題目及び講演者

「新情報システム学序説のご紹介」
情報システム学会 新情報システム学体系調査研究委員会

■講演概要

2009年の委員会の発足以来、人間中心の理念にそった「新しい情報システム学」の体系化の検討の概要と、その成果である「序説」の内容について、渋谷照夫委員のガイダンスの下ご説明いただいた。(研究会出席者で2013年度会員の方に序説書籍が無償配布された)

1. 序説発行の背景、目的、開発経緯の紹介(伊藤重隆 委員長)
2. 第1部(情報と情報システムの概念)の紹介(芳賀正憲 委員)
3. 第2部(情報システムをどのように作っていくのか)(大島正善 委員)
4. 第3部(現代情報システムの課題)(溝口徹夫 委員)
5. 質疑応答

■質疑(ディスカッション)

- ・情報処理学会のカリキュラム標準J07との連携の提案。
- ・序説で定義している「情報と情報システム」と「人間の情報行動の理解」を、実際の情報システムの構築へどうつなげるかが課題。

■本研究会について

これまで研究者や実務者の講演と参加者との意見交換を行ってきた。研究会で紹介されたどの事例においても、真に役立つ情報システムは人間の行動と情報が共調し、サービスの中心が誰なのか明確で、人にやさしく、組織・社会と調和のとれた倫理的なものであった。情報システムが人間活動を含む社会的なシステムであり人間の情報行動を支え発展に寄与するものという、情報システム学会の立ち位置を再確認できた。また、事例から情報活用によるサービスへの期待と社会のコンセンサスの問題、地域活性化事例における個人情報とインセンティブの問題、組織や社会のステークホルダーと開発者の合意形成の問題、まちづくりや地域デザインなど社会の現場とアカデミアとの関わり方、情報活用の倫理性、情報の所有権や情報公開などにかかわる問題などの課題が抽出され、また人中心のフィールドワークなどの方法論の有効性が示された。

課題の解決には、意味や意図などの解釈の問題を含む概念としての情報の定義や、人文・社会的側面を含む情報システムの定義などの基礎的な議論、システム認識と関係概念や要素間フローに着目した情報システムの分類や、社会システムとして信頼性を担保し説明責任を全うできるシステムエンジニアリングの方法論の確立などの技術的な議論が不可欠であり、情報システム学としての研究課題や方法論の体系化と合わせて取り組んでいく必要があることが確認できた。

研究会の成果としてまだまだ不十分ではあるが、今回の新しい情報システム学の体系の紹介をもって一応の区切りとしたい。

以上